常磐高等学校　令和2年度　学校重点目標並びに自己評価表

（　計画段階　・　実施段階　）

学校運営計画			評価(3月)
学校運営方針	知育、徳育、体育の三位一体を基盤として、至誠の心を育み、自由清新な気風で、心豊かな行動力のある社会有為の人材を養成する。		B
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	
5教科へ教育ICT機器を配付して授業改善が進められ、AO・推薦入試で組織的な取り組みが定着した。授業満足度指数、進路変更数で目標を達成できなかった。部活動入部率を高くし規範意識や校内外でのマナー遵守指導による学習環境の整備と授業改善（教科指導力）が急務である。また、教職員の率先垂範による挨拶、時間厳守、清掃、整理整頓を徹底する。	基本的生活習慣を確立し、主体的な学習によって確かな学力を定着させる。	家庭学習を定着させ、「予習、授業、復習(課題)」の学習サイクルを確立させる。	
		新高等学校学習指導要領の「主体的、対話的で深い学び」を実践する。	
	質実剛健の校訓を尊重し、規範意識を高め豊かな人間性を育む。	教育活動全般を通して、「耐性・自主性・課題解決能力」を育成する。	
		「規範意識」を高めると共に相手の立場に立った言動ができる生徒を育成する。	
	3年間を見通した継続的、組織的な指導により希望進路の実現を図る。	「高大接続改革（大学入学共通テスト）」を視野に授業改革を推進する。	
		生徒個々のデータを集約・蓄積して、「常磐スタイル」の進路指導を確立する。	
	自他の安全を確保する指導を充実し、心身ともに健全な生徒を育てる。	学校内外で「自他の尊重」意識して、良好な人間関係の構築に努める。	
		互いに「思いやりの心」を持って学校生活が送れるよう全教育活動で人権教育を実践する。	

	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
学習指導	教科指導力の向上	・授業規律を第一に考え「わかる授業」「伸びる授業」のために年間計画・指導案をUD化し授業改革を促進する。	B	B	B	教務内規を見直し改善した。また、授業評価アンケートを2回実施、授業改善に努めた。しかし、アンケートがどれだけ授業改善に活用されているかが見えてこない状況である。次年度はこの点が見える化できる工夫を行っていきたい。コロナの影響もあるが、出席率が非常に悪かったので出席率向上に向け対策を考え対応したい。
		・定期的な生活実態アンケートで授業改善に努め、生徒の「授業満足度」95%以上を目指す。	B			
	学習意欲の向上	・出席率の向上が学習意欲の向上に繋がることを認識させ、各学年「月間出席率」99%以上を目指す。	C	B		
		・生活アンケートにおいて「家庭学習時間　1時間未満」生徒を減少させ、学習習慣の改善を図る。	B			
生徒指導	規範意識の向上	・「生徒質問調査(i-check)」を実施して、個々の生徒理解を深め、学級経営や生徒指導等に活用する。	B	B	B	生徒会活動を活性化し部活動や委員会活動への参加を促した。更に充実した高校生活を自発的に行えるよう指導したい。また、教員の生徒理解を深めるとともに、学級や授業経営に毅然とした生徒指導力を発揮することができるよう具体的方策を策定する。
		・「交通安全教室」「携帯電話安全教室」を通じて、交通ルールやマナー遵守を徹底する。	B			
	生徒会活動の活性化	・部活動の「加入率70%」以上を目指し、個人の力の伸長と共に集団の成長を図る。	B	B		
		・学校行事だけでなく、「委員会活動」でも積極的に活動できる集団を育成する。	A			
進路指導	進路学習の充実	・個別指導を徹底し、英語検定、漢字検定、数学検定でそれぞれ「2級合格者数」10名以上を目指す。	C	B	B	ミスマッチのない進路決定と受験に対応した基礎学力の定着のために、3ヵ年の連続したキャリア教育プランを設定し、実施する。進路指導室の有効活用をし、生徒の進路意識を早期に高め、各個人の状況を詳細に把握、教員間で情報を共有し個々に応じた対応をすることで、生徒自身がより主体的に行動する力を養う。
		・授業改善を図り、情報処理検定で「協会会長賞」受賞数で全国1位を目指す。	A			
	希望進路の実現	・「高大接続改革（大学入学共通テスト）対策委員会」を充実して、学力の向上と主体的な学習を促進する。	B	B		
		・模擬試験結果分析会の徹底を図り、「センター・二次私大受験指導」まで拡充して国公立大学30名以上合格させる。	C			
その他	人権教育の充実	・外部委員を含む「いじめ防止対策委員会」を充実させ、いじめの未然防止を徹底する。	B	A	B	生徒を前面に出した学校案内やオープンスクールは好評で、参加者は増加したが、生徒募集に直結しなかったことが課題である。「いじめ防止」のための校内外の連携は充実したが、現実には撲滅までには至っていない。より生徒のこころに届く指導が必要と考え対応したい。
		・スクールカウンセラーとの連携による「いじめ防止教室」「いじめアンケート」等でいじめを許さない意識を高める。	A			
	広報活動の充実	・中学校や私塾との連携を強化し、「オープンスクール参加者」900名を目指す。	B	B		
		・学校案内、学校紹介DVDやプレゼンテーションを質的に向上させて、「推薦入試受験生」100名を目指す。	B			